

検証

崩拓銀

<12> 10.10.30

た「拓銀のように器量が悪く、財産のない相手じゃ、もらい手が無いでしょ」と白ちよう気味に吐き捨てる若手行員もいた。本州のある支店では地元の大企業、が数十億円の預金を下ろす動きに出た。

当時の拓銀の不良債権額は公表分で約五千億円。未公表分を含む広義の不良債権は一兆円前後ともいわれた。他行と比べても、拓銀がバブルで負った傷の深さは際立っていた。拓銀はイメージアップに必

断末魔

行」としてマスコミに取りざたされる拓銀だが、明確に名指されたのは、これが初め。動揺は行内外に瞬く間に広がった。

極秘に大蔵が「らく印」

止。六月には頭取の山内宏が、でかつ達な気風の銀行を自指の経営は「営業すればするだ會長に退き、副頭取の河谷禎したい。河谷は就任会見で、け赤字の垂れ流し」（拓銀関係者）。拓銀から送り込まれ

従四位曾根静夫
北海道拓殖銀行
設立委員の命

明治三十二年五月二十日

大蔵省

遺伝子 経営破たる元銀行マンの「素人経営」た、不名誉ならく印だ。この事実は顧客や株主はも筋は「拓殖」という遺伝子 筋は「拓殖」という遺伝子 筋は「拓殖」という遺伝子 筋は「拓殖」という遺伝子

だが、その笑顔とは裏腹に、最大の重荷となったのは、前年四月開業の「テルメインターナショナルホテル札幌」と、同六月開業の「エイベックスリゾート洞爺」。ともに拓銀の巨額融資で建てられた「バブルの塔」だった。

第二部「病巣」は今回で終わり、十一月三日と五日に第3経済面を検証「拓銀崩壊」特集を掲載します。